

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2018年6月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 平成30年6月6日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.56



木々の緑が目眩しく、心若やぐ季節となりましたが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

純正律音楽研究会は平成15年10月22日に法人設立、今年は15年目になります。昨年まではコンサートの開催を主にしてまいりましたが、今年は、この他に、4月15日埼玉県吉川市の「吉川中央ロータリークラブ」認証状伝達式にヴァイオリン、ハープのミニコンサートをさせていただきました。また11月10日には、千葉県市川市の「市川ライオンズクラブ」50周年記念式典にも演奏させていただきました。純正律音楽を多くの方々に知っていただくために、来年からもいろいろなところで演奏をしてみたいと思っております。今後とも純正律音楽研究会をよろしくお願い申し上げます。

なお、次回のコンサートは9月15日土曜日、14時開演、千葉県市川市の山崎製パン、クリエーションセンター内「飯島藤十郎社主記念LLCホール」にて開催いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

音楽の力

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

音楽の力、そしてこどもの成長もすごい、玉木さんがやりたかったこと！地球を美しいハーモニーで溢れさせて争いのない世の中に！と、今年で7回忌を迎えた初代会長の玉木宏樹さん、今頃はあちらの国で素敵な曲を書いてヴァイオリンを弾かれているのでは...

時が経つのは早く、洗足学園で行われている「室内楽フェスティバル」も5回目をこの3月に終わりました。

今年はチェロの生徒さんも多く参加されて、充実した内容になりました。日本を代表する室内楽奏者の先生方とのリハーサルと言う名のレッスン、そして本番を迎えるわけですが、今年は小学4年生の受講生の素晴らしかったこと！

原田幸一郎、百武由起、藤村俊介先生方を相手に、合図を送ったり、ディスカッションをしたり、先生方もタジタジでした。

それぞれの受講生にも、素晴らしい才能が見えて、これからの日本の音楽界がとてもしみになっていきます。来年はどんな受講生がきてくれるか今からワクワクです。

この室内楽フェスティバル終了したあくる日から、ベルリンでのマスタークラスのために、生徒さん43名、引率の先生、ご父兄含め51名でベルリンへ！

とても濃い2週間でした。ベルリン芸大のゴトーニ教授、トマシェフスキ教授、ホンダ・ローゼンベルク教授と共に、毎日レッスンをして、生徒さんたちのコンサート、オーケストラとのコンサートの準備、また、毎日のレッスン表の作成などめまぐるしい毎日を過ごし、無事に終了できました。

ベルリン郊外の高級住宅地に位置するホテルは、メンデルスゾーンハウスとも言われ、お金持ちだったあの有名なメンデルスゾーンの親戚が建てた建物なんです。敷地内に教会、ホテル、ユースホステルもあり、全部が廊下でつながっていて、学生たちとは同じ建物の中で過ごすことができました。音出しも、本当は、お昼休みは音出し禁止のベルリンですが、朝9時から夜8時までOK、食事ランチには温かいものを用意して頂き、素晴らしいベルリン生活を送りました。

参加した生徒さんたちは、また行きたい！楽しかった！と、1人で参加した中高生は、初めてのお洗濯、パッキングなど経験し、また、大家族のように、大きな子が小さい子の面倒を見ることを率先してくれていました。帰りの飛行機の乗り換えの時間がないときも、しっかり小さい子の手を握って走ってくれましたし、ヴァイオリン以外でも大きな成長となりました。

帰国後は、毎年恒例の入学式後の、「校歌はどうか?!」のイベントでした。校歌が、グレゴリオ、バロック、カノン、ジャズなどにどんどん変化して、皆

ビックリ！音楽って楽しいね！と生徒さんたち、弾いている先生方も幸せな時間でした。

あくる日は、生徒さんたちと、お寺で、コンサート、モーツァルトと四季！やはり、ヴァイオリンを演奏している時が幸せ♥

5月に入り、この純正律音楽研究会の角筈ホールでのコンサートも盛況でした。私たち、ハープの三宅美子さん、お琴の吉原佐知子さんとヴァイオリンの3人の組み合わせを初めて聴いた方も多く、この響きも皆さまはとても癒されるようです。

玉木さんの残された楽譜の玉手箱！
打ち出の小槌のように、いっぱいできます。さあ！次はどんな曲・・・

ムッシュ黒木の純正律講座 第55時限目 平均律普及の思想的背景について(44)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

今回はブラックフェイスがなぜ差別表現として禁じられなければならないのか？という話をした。今回以降、フランスのライシテ＝政教分離について説明してみたい。差別はいけないとしながら、なぜフランス社会はライシテの名の下にイスラーム教徒のヴェールを禁じるのかが、多くの日本人には理解するのが難しいからである。

現実的に言って、現在のフランスにおいてイスラーム教徒への差別は厳然としてある。しかもライシテという正義として行われるその正義はフランスの社会を知らない者にとっては奇妙に思えるだろう。実は、イスラーム教徒に対するこのような厳格な態度はカトリック教徒や伝統を重んじる保守陣営の人たちに限ったことではなく、社会民主主義を志向する左翼の側にも根強いということを描きおきたい。なぜフランス社会は左翼も含めて、イスラームのヴェールに厳しいのか？それはフランスの共和主義の伝統が神に対して根強い拒絶の感情を持っているからと言えよう。

実際、フランスのライシテというのは他国の人間にとってはわかりにくいところがある。これは日本人に対してだけではなく、プロテスタント圏のアメリカ人にとっても決してわかりやすい話題ではない。例えば、英語を読める方は Paul Berman 氏がネット上に書いたこの記事「Why the French Ban the Veil (何故フランス人はヴェールを禁止するのか)」

(<http://www.tabletmag.com/jewish-news-and-politics/211702/french-veil-berman>) を読むことを勧めたい。これはフランスのライシテについて非常にわかりやすく解説している文章なのだが、これは著者が英語圏の読者に向かって書かれた記事であることにも気をつけたい。その明晰な筆致に感心すると同時に、多くのアメリカの読者がフランスのライシテを理解するにはここまで詳細な文章が必要であるという事実にも驚きを感じる。

確かに、アメリカも合衆国憲法修正第1条で国教が禁止され信教の自由が認められており、この部分を持って政教分離を国制としているとされる。つまり、

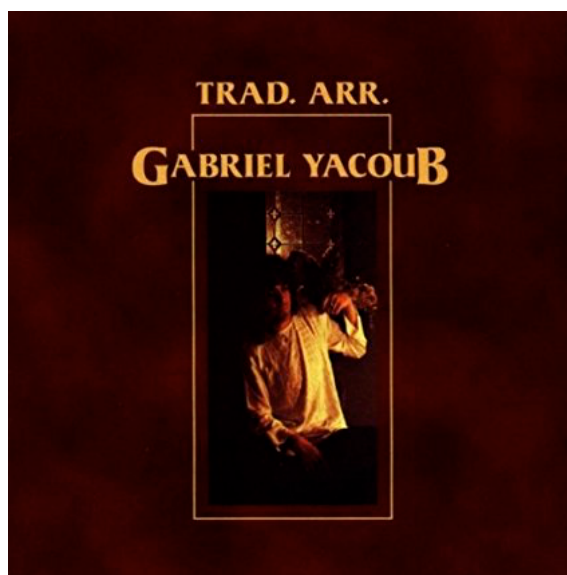
アメリカも政教分離の国だと言えるのだが、そのあり方がフランスとは違うのである。例えば、イラク戦争を開始する時、当時の大統領ブッシュ氏は演説で神のご加護を口にした。これはフランスではあり得ない行為である。大統領という公職にある人間が公の場で特定の宗教に言及したり、あるいは特定の宗教に属していることを示す服装や装身具を身につけることは禁じられているのである。対して、アメリカは可能だ。何故か？と言えば、アメリカは、政教分離の原則の下に個々人がいかなる宗教を信じることを保証しているので、大統領がキリスト教の信仰を持つことも、更なるその自らの信仰を公の場で表明することも何の問題もないと考えるからである。フランスは、もちろん、個人が特定の宗教を信じることは許されているが、それを公の場で表すことは許されない。

もちろん、これにはカトリックとプロテスタントの違いもあるだろう。しかし、フランスが何故公の場で宗教を持ち出すことをここまで嫌うかと言えば、彼らが神中心の社会を脱却し共和制を創始したと自負しているからだと言えよう。つまり、何故フランスがイスラーム女性のヴェールを拒絶するのかと言えば、もちろんイスラームに対する差別感情はあるにせよ、神に対するアレルギーのせいなのだとと言えるだろう。詳しくは次回。

CD レビュー 純正茶寮

『Trad. Arr.』

純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Trad. Arr.』

Gabriel Yacoub

レーベル: Allegria

ASIN: B000025SYM

JAN : 5413356991222

以前に紹介したフランスのトラッド・バンドの Malicorne のリーダーがソロ名義で出した最初のアルバムである。発表が 1978 年なので、最初に紹介した Malicorne の傑作『L'Extraordinaire Tour de France d'Adélaïde Rousseau, dit Nivernais la clef des cœurs, Compagnon charpentier du devoir』と同じ年に出たことになる。Malicorne の楽曲が複数人による重厚なアカペラをはじめ、ハーディーガーディなどの古楽器を駆使したアレンジが特徴的なものに対し、このソロアルバムは基本的にはフォークギターを伴奏に Gabriel が淡々と歌い上げる簡素なものとなっている。

もちろん、ギター伴奏の部分は平均律だが、ハーディーガーディやコルノミューズなどの古楽器も控えめながら使用されており、ヴォーカルの旋律を重視した編曲には微分音が心地よく響いている。やはり今般のシンセサイザー中心の平均律を基にしたアレンジとは大きく違う。

かつてアナログ盤を中古で購入し、その後フランスに行った時 CD 版になっているのを知ったが、そのうち買おうと思っているうちにあつという間に絶版となり、探していた逸品である。2018 年 4 月現在、日本の Amazon には中古で二つほど出品されているが、26,455 円と 80,803 円という高値がついており、とても手が出ない。去年、Discogs という中古 CD を扱っているサイトに買いたい作品ということで登録しておいたら、アメリカの中古ショップで 10 ドルで売り出されていると知らせがあり、速攻で注文した。送料含めても 25 ドル、日本円で 3 千円弱といったところであり、版の状態はとてもよく大変満足している。

8 曲目の「Mon ami mon bel ami」はどこかで聞いたことのあるメロディ。トラッドなので別に他のバンドが演奏していてもおかしくない。フランス語の歌詞はついているのでフランスのどのバンドの演奏で聞いたのだろうと思っていたら、実は、フランスではなく、これも随分と前に紹介したスペインの古楽器を復元して演奏しているカルロス・パニアグワの伴侶であるベゴニア・オラヴィデがギターを奏でるアルバム『サルテリオ』（MA レコーディングズ）の 5 曲目に入っている「Cantiga」という曲だと判明。いや、恐るべし、トラッド。

霊枢電車のラッパ手

玉木宏樹遺作

「序曲」

やあやあ、遠からんものは音にも聴けよ、我こそは神戸生まれの天下無双の暴れん坊ラッパ手、玉木勝であるぞおー!

やあやあ、近からんものも、このラッパを聴けよ!

「ヤメロー!この下品低俗、道徳ジューリンのインランラッパ!」

「オヤオヤ、ショスタコボッチはん」

「ボッチじゃない、ヴィッチだ」

「ヴッチグソさんですか」

「ウム……」

「あんたが時間を守らんから、集合ラッパを吹いたら、やっとな姿を現した」
牛乳瓶の底のようなレンズのメガネ姿は生前のまんま。冥界での姿は、下界での最盛期だから、やはり姿格好は垢抜けない。しかしラッパの音で姿を現したのは、ショスタコヴッチだけ。他の連中がいるはずなのは気配で分かるが、姿は見えない。神戸のラッパ手といえば、チョビひげを生やしたマドロス気分のテキヤのオッサン風情。こんな二人が気が合うとはとても思えない。

「なんでお前のような、ヤサグレ・ヤクザラッパと一緒にならなきゃいかんのか、ずっと運命を呪ってたんだ」

「ヤサグレ・ヤクザ・ラッパとはよくも言ってくれたワ、じゃこれを聞いてみる」

「ワワワ～これぞ、本当にやめてくれー」

「なぜなんだ、ボッチはん。アンタが音楽心にめざめたのは、このラッパだったんじゃないか」

「恥ずかしいことを言わんでくれエ」

「何が今更恥ずかしいなんて、ヘソが茶を沸かすわ、あんたのシンフォニーにはしょっ中オブセッションみたいにこのフレーズが出てくるわな。六番の三楽章なんかもろに、このリズムだし、とうとう最後の十五番の一楽章にはモロ原曲そのものがでてくる」

「だから、そのことが恥ずかしいんじゃない。お前のようなヤサグレに吹かれるのが恥ずかしい」

「それからボッチはん。アンタの小太鼓好きもこの曲のセイじゃないのかい」

「いや、あれは違う。ニールセンの影響だ。ちょっと待て、ワシのインフルエンスを栓サクしてどうするんだ」

「ハハハ、冥界にはインフルエンザなんてないわ」

「やっぱり学のないヤサグレ・ヤクザだなあ」

「何と言われようとかまわないが、あっしの方でも、自分の運命を呪っているんだ。自分の耳とセンスには人後に落ちぬ自信はあってもすべての音楽理論、作曲法上通じた **IQ200** の殆ど自閉症の人間失格のボッチはんはんと同伴にされるとはなあ。しかし、この間のエンマ大王最高評議会の決定だから、さからうわけにはいかん」

「しかし、なぜお前のような楽譜も読めんヤサグレ・ヤクザと組まねばならないんだ？」

「仕方がないでしょう。我々は腐るほど時間がありあまっている。消費のしょうがないんでね。で、何か仕事をしているフリでもしないと、腐るに腐る。で今回、下界では有名とされた作曲家を集めて、音楽以外のイメージーションを競おうということになったわけでしょう。無台は日本、時代設定は21世紀前後。なるべく **SF** っぽい小説を、というわけで現在、これだけ原稿が集まっている。

「それは分かっているが、何でお前なんだ」

「ワタシャ、ラッパ吹きですが、実は猛烈な鉄道オタク。それで、今回霊柩電車のラッパ手に選ばれたワケ」

「お前みたいに、正体の分からんヤクザ者よりも、例えばドゥクシツェルとか

、ハール・アルパートとか誰でも、お前よりうまいはずだ」

「ちょっとボッチはんその人たちは未だ下界で活躍してまっせ。死んだとしてもまだこの冥界へくる途中の審判状態のはず。それに・・・」

「それに、なんだ？」

「あの一、あの人たちは、私が言うのも何だけど、みんな楽譜に強くて、テクニックも達者なんだけど、結局音楽全体を府目すると、なにか得意じゃなさそう。だから譜面も読めずに感覚で吹きまくる私が、ナビゲーターに選ばれたんじゃないかなあ!、みなさん、どうかね」

「ウォーン、ウォーン、その通り」

「おやおや、多勢いらっしゃるようだな。音はすれども姿は見えぬほんにおまはんらは、屁のようだ」

「へではないコーロだ」「なに一屁を香炉につめるとは面妖な」

「その香炉ではない。カタカナのコーロ、つまりギリシャ悲劇の合唱隊、合いの手屋だ」

ラッパ手とショスタコは車内を見渡したが全く姿は見えない。一応電車は、都電荒川線の9000型くらいの大きさだが

そんな室内とは何の関係もない幽体集団だった。「我々はノミネートから外れたへボーイ作曲家の集まりだ」

ラッパ手は一応運転席にはいるが、車掌の方に向いている。ショスタコは、車内半分くらいのドアの位置辺りにいる。しかし、この電車は動き出さない限り、ガラス窓の向こうは全く何も見えない。

「さてボッチはん、ボッチボッチ始めまひよか」

「サンセイ!」とコーロの斉唱。

「コーロのみなさーん、読んでますね。これから品評会。そして、その内容や書きっぷりから、誰がどんなつもりで書いたのかを当てっこしようということ。お分かりですね。」

「ワーイ」

「我々は死ねないんだから、時間は腐るほどある。たっぷり栓サクして、書いた本人を探し当て、いたぶってやりまひよう」

「ヒョウ、ヒョウ」

「では最初に<無窮動>というピアノがテーマのショートショートから。みなさんももいちどたっぷりと言っても短いけど読んでください。読み終わったら、誰が書いたか、名前を出してください。その中でもしや、と思う人物があれば、私がラッパを吹いて、その人のすみかまで案内しまひよ。そこでたっぷりと審議して問いつめまひよう」

「ワシは何をすればいい?」とショスタコ。

「アンタはムチャクチャ、ピアノがうまいし、音楽性も100万馬力。みんなの意見をアンタなりにメッタ斬りしてくれなはれ」

「よし、任せてくれ、みんないいか」

全員がそれぞれピアノの音でグリッサンドを鳴らすものだから、そのうるさいことこの上なし。

「ヤメロー、偶然性の無調と複調は」とショスタコ。ピアノの雑音は空気の抜

けたタイヤのように急激にしなびた。

「ハハハ、ボッチはん。さすがに ケージ派はお嫌いなんですな。では始めましょう。みなのもの一」

[無窮動]

「ようし、もういいだろう。こんなアツという間に読めるショート・ショートに一時間もかけたんだぞ。まずボッチはん、品評してもらいまひよ」

「実に下らん。鼻紙にも落とし紙にもならんようなひどい内容だな。大体ランゲの「花の歌」なんて少女趣味の、あ、そうか、少女が好きなんだから仕方ないか。プーランクの無窮動なんていうのもイメージだな。あれは全然難しくないぞ。」

「でもあの単純さは、人形の自動演奏にはぴったりじゃおまへんか」

「ヤサグレ・ラッパがあんな曲知っているのか」

「バカにしなはん、戦後の神戸のクラブで、あのメロディでジャズまがいやってましたがな」

「ま、いずれにしても、この作者は、すこぶるつきのピアノ・コンプレックスがあるな。多分、ピアノの弾けない奴だろう」

「ウオー・ウオー」とコーロの合いの手の声。

「ボッチはん、いくらアンタがピアノの名手だったとしてもあんまりじゃないかな」

「いや、ピアノの名人ならあんな発想は絶対にしない。」

「ウオー・ウオー」

「よし、コーロのみなはん、ピアノの弾けない有名な作曲家は誰でしょう」

「ベルリオーズ」とコーロの斉唱。

「やっぱりそう来たか」とショスタコ。

「彼は本当にピアノが弾けなかったようだな。楽器はギターしかできなかったと言われている。」

「ちょっとおまたのボッチはん。ピアノを弾けず、ピアノなしでどうやって作曲するのかいな？」

「やっぱりヤサグレ・ラッパのバカモノ。作曲家というのは、いつも白いグラインドピアノに向ってジーンと音を出し、頭をかきむしって楽譜を書き直す、なんていうのはドラマの上でだけのこと。ピアノで作曲したらピアノ曲にしかならん。ピアノ以外の、たとえばオーケストラのサウンドなんか、全くピアノとは違うしな。」

「そういう時はどうするんです？」

「全くイマジネーションのない奴だなあ、情けない」

「いや、ですからラッパ手なんで」

「あんな、頭の中ですべての楽器を鳴らすんだよ。50人編成のオーケストラならそれなりにね。またピアノのうまい奴がピアノ曲を書く時はソロバンの名人のように、頭に思い浮かべたピアノの鍵盤を弾くことによって、音がきこえてくる。」

「そんなもんなんですか。さすがに IQ200 のボッチはん、いまさらながら尊敬

しますわ」

「お前みたいに、ピアノがないと作曲できないバカシロートが考えるから、ベルリオーズは若い時にスパイ容疑で捕まったことがある」

「えー！」

「彼はローマ賞を取りたくて、オーケストラの曲と格闘していた。ある時、誰もいない海辺で、スコアを書いていた時。怪しまれて警官に捕まった。何をしている?と訊かれて「作曲」と答えると警官、「ピアノもなくて作曲なんか出来るわけがない」というのでベルリオーズ、オーケストラのスコアを見せながら、ほらここにいろんな御玉杓子を書いているしいうとますます怪しんだ警官「それはスパイの暗号だろう」というわけでしょうっぴかれたんだ」

「なんたるビビンチョ。お気の毒に」

「というわけで、作曲とピアノはあまり関係ないことは分かったただろう」

「それは分かりやしたが、ベルリオーズさん、ピアノが弾けないのならなおのこと」

「いや、それは違うぞ。彼はハーブは好きだったが、ピアノは嫌いだったようだ。彼がドイツに演奏旅行した時、ドイツは田舎で、ハーブがないので仕方なくピアノで代用している、と怒っているくらいだからな。それから、400人から500人ものオーケストラを指揮するような大風呂敷、大ボラ吹きの方が、チマチマしたピアノ人形のような話を書くわけがない。

「でも一回会ってみるくらいは」

「ダメダメ、あのスケールのデカすぎる躁鬱病に伝染すると、冥界が汚染される。ワシは金輪際、会いたくない。なんならお前ひとりで行ってこい」

「そんな殺生な・・・。コーロのみなさん、ベルリオーズさんはパスでいいっすか」

「ヨーシ」とユニゾンコーラス。

「では次の候補は?」

「チャイコフスキー」とユニゾンコーラス。

「おやおや、これはボッチはん、アンタロシヤですがな」

「うーん、わしはチャイコフスキーが苦手だなあ、あのロシア農奴のはらわたをえぐるような泥臭い泣き、メロディはダメじゃ」

「ボッチはん、アンタの好き嫌いはおいといて、チャイコはんはピアノが弾けなかったんですか」

「うーん、たいして弾けなかったのは事実のようだな。彼のピアノパートはいつも拍一本足りないような感じだ」

「でも、それを克服してちゃんと弾けばカッコいいんじゃないの」

「それが、そうでもない。はっきりいって音を省いて弾きやすくした方が効果が出る」

「どうしてそうじゃなかったんでしょう」

「ひとつには彼はピアノのフィンガリング(指体い)に弱いので、頭の中だけで書いたせいじゃないのかな。今の現世なら、シンセサイザーの打ち込みで何とでもなるが、あの時代じゃ無理がある。それから、もうひとつ原因がある」

「ほう?」

「彼はうまい楽器プレーヤーにひどいコンプレックスと嫉みを持っていたようだ。彼の曲は、すべての楽器が難しい。技巧的に難しいのではなく、単に弾きにくいのだ。<くるみ割り人形>

ゾロアスター教について

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤昌男

第1. 概要

1. ズービン・メータ

クラシック音楽が好きな方で、指揮者ズービン・メータと言えば、知らない人はいないでしょう。

では、ズービン・メータさんは、何教か御存知でしょうか。彼は、ゾロアスター教徒です。彼は、1936年、当時のイギリス領インドのボンベイでゾロアスター教徒の家庭で生まれました。ペルシャ系の祖先を持ち、父メーリ・メータも指揮者であり、地元のボンベイ交響楽団の指揮者でした。

2. 拝火教とは誤訳

ではもう一つ質問します。ゾロアスター教は何故に火を大切にしているのでしょうか。火はステップ地帯の住民の生活にとっては不可欠のものでありました。火は寒さの厳しい冬には暖を取る源であったし、彼らの主食である肉を料理する手段でありました。火をおこすのに非常に手間がかかった時代では、かまどの火はいつも絶さないでいるのが賢明でありました。この様なことから、ゾロアスター教は火を大切にするのだと思われれます。

しかし、ゾロアスター教徒は、拝火教とか fire worshipper というような言い方を嫌がっているとあります。彼等は、火そのものを神聖視しているのではなく、火は一種のシンボルで、彼等は善き教えである光の神アフラ・マズダーを崇めることが彼等の信仰なのです。火そのものを拝んでいる訳ではないので、拝火教と訳すのは、明らかに誤訳であると思います。なお拝火教と訳したのは、西周だそうです。

3. 「マギ」とは

マタイによる福音書第2章第1節に、イエスの誕生のとき、東方から3人の博士が訪ねてきて黄金・乳香・没薬などの贈り物を贈った物語が出ています。「博士」とか「賢人」とかの訳は、イギリスの欽定訳聖書の wise men から来ています。wise men の原語は magi であります。magi はゾロアスター教の神官を意味しています。ちなみに日本聖書協会の共同訳では「占星術の学者」と訳されています。以上の事からすると、東方からの3人の博士は、ゾロアスター教徒であった可能性が大であります。

なお、聖書との類似点として興味深いのは、ザラスシュトラ（英語名ゾロアスター）の母親も処女降誕であると伝えられております。

4. 創唱宗教

開祖はザラスシュトラで、開祖がはっきりしている宗教を創唱宗教と言います。日本の神道やユダヤ教も開祖がはっきりとしていません。ゴードマシッダールタの仏教、イエス・キリストのキリスト教、ムハンマドのイスラーム教とかは、創唱宗教です。その様な創唱宗教の中で現存し、世界最古のものがゾロアスター教です。勿論、現存しない創唱宗教も歴史上は存在しました。しかし、現在でも、ゾロアスター教徒は全世界で約15万人おります。ザラスシュトラという開祖がいて、その開祖の説に基づいてゾロアスター教が出来上がっています。然も、諸説ありますが、ザラスシュトラと言う人は、紀元前1500年から1100年頃、即ち、今から3500年前の人です。3500年前の人が何を考えていたのか。それが残っているのがゾロアスター教です。

5. 二神教

世界には、さまざまな宗教がありますが、その大部分は多神教です。ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教だけが一神教です。多神教のようで多神教でないのは仏教です。仏とは、覚った人間のことで、神ではありません。誰もが、仏になることを目指すのが仏教です。だから、仏は神ではないのです。

一神教と多神教との間に二神教というのがあり、ゾロアスター教は二神教です。光の神アフラ・マズダー、闇の神アフリマン、この善と悪とが争っているとするのがゾロアスター教です。最後の最後には、アフラ・マズダーが勝利を収め、悪の神は滅ぶので、結局、神が一人となってしまう点では、一神教に似ています。

イデア界と現象界とを区別したプラトン（前429年頃～前347年）の二世界説は、二元論の最初の形を示すものとされていますが、今から3500年前に善の神と悪の神とが争っているとするゾロアスター教は、二元論の嚆矢というべきでありましょう。

第2. 歴史

1. ゾロアスター教の起源は古く、紀元前6世紀にアケメネス朝ペルシャが成立したときには、すでに王家と王国の中枢をなすペルシャ人のほとんどがゾロアスター教を信奉していました。

2. ペルセポリスの滅亡

紀元前550年から紀元前330年までアケメネス朝時代で、ペルセポリス（Persepolis）と呼ばれる壮麗な都市がゾロアスターを信奉する帝国の首都でありました。その時代、ゾロアスター教は、アジア、アフリカ、そしてヨーロッパまで拡がりました。このペルシャの首都は、アレキサンダー大王によって紀元前330年に焼かれ破壊されました。ペルセポリスの遺蹟はイランのシーラーズの東北方にあります。

3. パルティア王国

しかし、イラン系の人々は、もう一度大帝国を再建しました。パルティア（前248年～後226年）がそれです。イラン高原東北部のパルティアから興って、イラン及びメソポタミアを支配しました。

始祖アルサケスの名によってアルサケス朝とも呼ばれます。西はユーフラ

テス川から東はインドに至る広大な地域を勢力下におき、ローマ帝国と激しい戦を繰り返しました。この王国の地は東西交通の要衝であったため、中国の絹貿易を独占しておりました。

4. ササン朝ペルシヤ帝国

パルティアが倒れて3度目のペルシヤ人の大帝国であるササン朝ペルシヤ帝国（226年－642年）が建設されました。アケメネス朝、パルティアを経てササン朝ペルシヤはゾロアスター教を国教としました。しかし東ローマ帝国とササン朝ペルシヤとの連年の闘いに疲れた隙にアラビアから新興勢力が台頭してきました。ササン朝ペルシヤの最後の皇帝ヤズデギルト3世（在位632年－651年）は、ネハーヴァントの戦いでイスラーム軍に大敗し、ササン朝ペルシヤ帝国は滅亡しました。

5. 宗教界の混乱

ササン朝下の西アジアは、とくに諸宗教が乱立した時代で、ゾロアスター教を国教とはしていましたが、東方インド国境には仏教が栄え、またローマ人によってパレスティナから追放されたユダヤ教徒やネストリウス派やアリウス派など異端派キリスト教徒がペルシヤ領内に勢力をはり、これら諸宗教の影響をうけてマニ教・マズダク教などが発生しました。このような宗教界の混乱こそ、イスラム教の成立に大きな影響を与えたのです。

ここでマニ教とマズダク教について触れておきます。

6. マニ教

マニ教は、創始者マニ（216年バビロニア生れ）によって提唱された新宗教で、ゾロアスター教・キリスト教・仏教などの諸要素を包含する混合宗教であり、基本思想はゾロアスター教義を変形した二元論で、宇宙原理としての善と悪とは光明と暗黒に示されるとします。マニはゾロアスター教の圧迫で274年に処刑されました。マニ教はヘレニズム世界にも伝わり、キリスト教教父正統キリスト教の基礎を確立したアウグスティヌス（354年－430年）も一時マニ教徒となったことがあります。この為アウグスティヌスの神学体系には、マニ教の禁欲主義がそのまま入ってしまったと言われています。その後マニ教の活動の中心は、後にサマルカンドに移り、ウイグル人の間にも拡がりました。唐の則天武後の時に中国に伝わり、12世紀頃まで行われました。その後、イスラム教の普及とともにマニ教は行われなくなりました。

7. マズダク教 (Mazdak)

ササン朝時代、5～6世紀の人物マズダクによって主唱された宗教で、その教説は明暗二元論を認め、マニ教よりいっそう徹底した立場から社会制度の矛盾を強調しましたが、貴族・僧侶の反対にあい、長くは続きませんでした。

8. 642年のアラブ人侵略ののち、ゾロアスター教徒の生活は日増しに厳しくなりました。651年、アラブ人は最後のササン朝ペルシヤ王ヤズデギルト3世を倒し、ペルシヤの覇権を握りました。続く200年以上の間、イスラム教徒の為政者は異教徒の改宗を最優先施策としました。ゾロアスター教を放棄しない者に対する罰則は強化の一途を辿りました。

なお、ペルシヤというのはこれは地方名を指しています。今のイランの南西部を指してパルス地方と言います。このパルス地方がペルシヤという形になって、この国全体がペルシヤと言われる様になったのです。

9. アーリア民族

19世紀になって発達した比較言語学というのがありますが、比較言語学は、最初はサンスクリット、古代のインドの言葉に目をつけて、そこからギリシャ語、ラテン語との親縁関係を研究し、古代の文化というものがどのような関係があったのか研究しました。その比較言語学はインド・ヨーロッパ語族というものを提唱しました。インド・ヨーロッパ語族は、カスピ海と黒海の北側あたりに住んでいたと言われていました。それはだいたい2000年から3000年位前と言われていました。そのインド・ヨーロッパ語族がインドへ行ったのがインド語派、ヨーロッパへ行ったのがギリシャとかラテン、スラブとかケルトそしてゲルマンです。ナチスの人達は、これを悪用して、自らをインド・ヨーロッパ、すなわちアーリア民族と考えた訳です。しかし、アーリアと言う時には、ヨーロッパへ行かないでアジアに残った人々を指します。そこから一方はインド、他方はイランに入りました。そこでアーリアというのは、インド・イランというグループを指します。従って、インド人とイラン人の祖先は非常に近いところの隣り合った関係にいました。その彼等をアーリア人と言います。

第3. ゴロアスター教の教義 (善悪二元論)

1. ゴロアスター教は、古代のアーリア人が古くから信仰してきた自然崇拝の宗教を母体としており、それを体系化していったのはザラシュトラであると考えられています。古代アーリア人の天の神ヴァルナの信仰は、ザラシュトラによって道徳的意味を付与されアフラ・マズダーという宇宙創造の至高神の地位を与えられ、ゴロアスター教において、火のみならず、水、空気、土もまた神聖なものにとらえられています。

ゴロアスター教の教義の最大の特徴は、善悪二元論と終末論であります。経典「アヴェスター」によれば、世界は至高神であるアフラ・マズダー、及びそれに率いられる善神群 (アムシャ・スプンタ)、並び大魔王アンラ・マンユ (アフリマン) 及び魔人群の両勢力が対峙し、互いに争う場であり、「生命・光」と「死・闇」との闘争であると言います。

ザラシュトラによれば、最初に2つの対立する霊があり、両者が相互の存在に気づいたとき、善の霊 (知恵の主アフラ・マズダー) が生命・心理などを選び、それに対してもう一方の対立霊 (アンラ・マンユ) は、死や虚偽を選びました。これにより、善悪二神の抗争の場である、この世界が形作られたと言っています。(フリー百科事典「ウィキペディア」参照)

2. 善なる神が創造した世界に、邪悪が存在するという矛盾にザラシュトラは一つの説明をしました。「善にして愛にみちた神が、何故にしてこの世界に邪悪や災難の存在を許すのか」と言う疑問にゴロアスター教は答えています。邪悪や災難は虚偽すなわちアンラ・マンユの所業であるとしています。そしてアフラ・マズダーは、邪悪や罪業と戦い、アンラ・マンユを倒すというのです。現世の行動の結果によって、人間はアフラ・マズダーの栄光の下に迎

えられるか、アンラ・マンユによって支配される地下の世界へ行くかの悪魔という概念を世界にもたらしました。

3. ザラスシュトラは、「善思」「善語」「善行」という単純な教義に則って生きる事を説きました。そして、最も重要な目標は「善思」を持つこと、即ち、アフラ・マズダーの最高の属性の一つである「良心」を持つ事であると説きました。ただアフラ・マズダーは人間の生活のあらゆる側面に命令を下すわけではなく、天地創造のときに、人間に自由意志を与えたと説いています。

第4. ゴロアスター教の聖典「アヴェスター」

1. アヴェスターは、ゴロアスター教の聖典であり、その言語はアヴェスター語と言われ、東イラン方言に属すると言われておりますが、仏教の梵語、即ち、サンスクリット語に非常に近いものだそうです。ゴロアスター教がササン朝ペルシア時代に国教となり、シャープール1世（在位241～272）の治下で最後の編纂が行われ、21巻本が成立しました。現存するのはその4分の1にあたります。その内、ガーサー（詩篇）はゴロアスター自身の著作とみなされております。

2. 「アヴェスター」は、イスラーム時代に、既に述べた如く、その約4分の3が失われたと伝えられております。しかし、「ガーサー」に示された「最後の審判」「天国と地獄」などの終末論的世界観が、後期ユダヤ教やキリスト教に大きな影響を与えたことは事実であります。さらに死者にとって、死から3日目の朝、魂は身体を離れ、「チンワト橋」(the Chinvat Bridge) を渡らねばならないとする教義は、仏教における「転生」思想の形成に繋がるものであります。

3. 古代メソポタミアや古代エジプト、古代ギリシャの信仰が失われている現在、ゴロアスター教はヒンドゥー教とともに現存する世界最古の体系的、教典宗教だと言えます。

4. ザラスシュトラの教えは、17の韻文詩からなるガーサーに述べられています（但し、現存しているのは、殆んどには後代の手が入っていると言われております）。ガーサーはヤスナと呼ばれる祭儀書の一部であります。具体的にガーサーを引用してみましょう。

(1) 「だれが太陽と星辰に路を定めたのですか。だれによって月は満ちていたり、欠けていったりするのですか。だれが大地を下に支え、また天空を落ちぬように〔支えているのですか〕（中略）だれによって暁と日中と夜があつて背負うものに務めを思いおこさせるのですか」（ヤスナ44. 3-6）。ザラスシュトラはその答えを「秩序の父」アフラ・マズダーであるとしている。（原書房発行、ケンブリッジ「世界宗教百科」216ページ）

(2) もう一つ引用しましょう。

「まことに、はじめに二つの霊があり、彼らは対をなすもので、戦っていると知られている。思考や言葉や行動において彼らは二つ、つまり善と悪である……この二つの霊が初めて邂逅した時、彼らはそれぞれ生と非生を創造した。そして最後には、虚偽（ドゥルグ）に従う者たちは最低の存在になり、最上の住居は正義（アシャ）を保持する者たちへ与えられる。この二つの霊のうち虚偽に従う方は最悪の行動を選び、最も堅い石（天空）

に覆われている最も聖なる霊は、正義を選んだ。アフラ・マズダーを、正しい行為でいつも満足させる人は、(すべて正義を選ぶであろう)。[ヤスナ・30・3-5] (講談社学術文庫「ゾロアスター教」58ページ)

第5. イランにおいてゾロアスター教は、何故に衰退したのか

イランにおいてゾロアスター教は、イスラームの浸透によって、ほぼ消滅してしまいましたが、何故でしょうか。同じ様な状況にあったキリスト教やヒンドゥー教との違いは何故生じたのか。これに関してメアリー・ボイスは次の様に言っています。

「サーサーン朝の終りには、イランは、疑いもなく、宗教改革前のヨーロッパのように祭司に牛耳られていた。すべての人は、貧富にかかわらず、魂を救うための宗教祭儀や浄めの儀式や、罪を償う勤めに対してお金を出すよう圧力をかけられていた。続く信仰の歴史は、多くの平信徒がそのような義務や義理を、正義の戦いをするうえでの自分の役割の一部として受け入れたことを示している。しかし貪欲だったり非良心的だったりする祭司に出会った者のなかには、中世のキリスト教徒がそうであったように、自らの背中に乗った聖職者を追い払いたいと望んだものもあったに違いない。この時期には、教会や儀礼上、多くの発展が見られ、ゾロアスター教にとっては、改革とか救済の希望がある程度まで各人の手の届くところにあった初期のより単純な慣習に復帰するための機が熟していた。しかし実際には、信仰に、新しい生命と力を与える改革という再生の風が吹くことはなく、軍事的なイスラーム教という驚異の嵐が吹いてきたのであった。」

(メアリー・ボイス著 山本美代子訳『ゾロアスター教』2010年 講談社学術文庫 272ページ及び273ページ)

第6. パールシー

642年にイスラーム軍がササン朝ペルシアを滅ぼし、ペルシア全土を征服すると、ペルシア人は次第にイスラーム教に改宗しました。しかし、古来の信仰であるゾロアスター教を捨てず、祖先伝来の祈祷・儀式を固守しようとする人達は、717年に祖国を去って大挙してインド西海岸のサンジャンへ移住し、その後次第にグジャラート地方一帯に広がりました。パールシーはパールスすなわちペルシアの形容詞であります。現在、インドのマハラシュトラ州及びグジャラート州に、約7万5000人のゾロアスター教徒が住んでいます。そしてボンベイ(現在のムンバイ)及びその周辺地域には、約5万人のパーシーが集中しています。

17世紀になってヨーロッパ商人がインドへ参入すると、ゾロアスター教徒はブローカーとなって間に立ち、ボンベイにきわめて強い影響力を持つ財閥を築きました。現在、ボンベイ(現在のムンバイ)地方の綿業・電気・製鉄などの重要産業はほとんどパールシーの経営にかかり、経済的に豊かで教養も高く、インド社会における彼等の地位は相当に高いと言われております。最近の内紛でがたがたしているそうですが、世界有数の規範の製鉄業を営むタタ財閥、親日的な一族で、広大な邸宅に日本庭園が造園してあるゴドレッジ家、その他ムンバイでイギリス海軍にインド産のチーク材で艦船を提供したワーディアー財閥(現在では土地財閥)、石鹼会社から起業したゴドレッジ

財閥（現在では化学薬品、農業分野）がパールシー族であります。

パールシーは布教も改宗も行わず、パールシーの間で行われる一夫一婦制の宗教内婚が厳守され、それによって生まれる家族によって成員が補充され、信仰が伝達されていると言われていました。最近では、死亡率が出生率を上回り始めており、また教育水準の向上によって、特にアメリカへ移住するゾロアスター教徒が増加しており、インド在住のパールシーは減少の一途をたどっているとの事であります。

第7. 葬送

ゾロアスター教の特徴の一つは葬送にあり、鳥葬ないし風葬を行っており、今日ではあまり見られない風習の一つであります。P.R. ハーツ著「ゾロアスター教」（青土社）145ページ最後の行以下は、次の様に述べています。

「死はアンラ・マンユが生にたいしてついに勝利を収めたことであるから、遺体は極限の汚穢の状態を意味する。それゆえ、火、水、空気、土という、神聖な要素を汚すことは許されない。インドとイランでは、遺体の処分は「ダフマ」すなわち沈黙の塔に委ねるのが伝統である。これは屋根のない円形の石造建築物で、ふつう不毛の丘の上に設けられる。内部に三重の円になっている。外側から内側へ、男性用、女性用、子供用である。」

鳥葬というのは、本来は、土葬や火葬に比べて衛生的であったそうですが、近代になってくると、そうとも言えなくなりました。この仕方は乾燥した土地で、太陽の光がサンサンと注ぐところであれば、残った骨は、太陽の強い日射の中で、ボロボロになります。そうならない環境も増え、現代のゾロアスター教徒は、必ずしも鳥葬を行っている訳ではない様です。

以上

年 表

- 前625年—前539年
新バビロニア王国
- 前605年—前562年
ネブカドネザル2世
- 前586年—前538年
バビロン捕囚
- 前539年
バビロンの陥落（アケメネス朝に占領された）
- 前538年
キュロス大王のユダヤ人解放
- 前356年—323年
アレキサンダー大王
- 前312年—前63年
セレウコス朝
- 前330年
アケメネス朝ペルシアの滅亡
- 前248年—後226年
パルチア

後 70 年

ローマによるエルサレム攻略、第二神殿の破壊

3 世紀

「70 人訳聖書」

後 226 年—651 年

ササン朝ペルシア帝国

651 年

イスラム軍がササン朝の最後の皇帝ヤズデギルト 3 世を破る

755 年—763 年

安史の乱（唐代史のみならず、中国社会の発展史上の分岐点。安祿山という非漢民族出身の将軍の名は、アレキサンダーの漢字表記との説もある。）

13 世紀

モンゴルの拡大

2018 年 4 月 5 日 脱稿

今後のスケジュール

【純正律音楽コンサート】

2018 年 9 月 15 日 土曜日 14 時開演

会場：山崎製パン「飯島藤十郎社主記念 LLC ホール」

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

ベアンテ・ボーマン(チェロ)



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成 30 年 6 月 6 日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫